

先輩たちの声

「教師としてのやりがい」

菅原小学校 東 悠河

「どんな子どもたちに出会えるのだろう」という期待と不安を胸に、教員生活が始まりました。いざ、子どもたちに出会ってみると、子どもたちの底抜けの元気さに驚かされ、今では、その姿を見る度に、いつもパワーをもらっています。その一方で、性格も考え方も異なる子ども一人一人と、信頼関係を築くことの難しさを実感し、悩むこともありました。周りの先生方にアドバイスをいただき、粘り強く子どもと向き合う中で、子どもの行動の背景にあるその子の本心を理解することが、子どもの心に寄り添う一歩になることを学びました。

子どもたちのために何ができるのかと考え、試行錯誤する毎日ですが、そのような日々に教師としてのやりがいも感じています。



「子どもと共に成長する」

新庄小学校 杉村 佳乃

私が担任するクラスに毎日泣いている児童がいました。一番ショックだったのは、算数の問題が分からなくて泣いていたことです。泣いた日の放課後は私も反省し、授業の進め方についてさらに工夫するようにしました。その想いが伝わったのか、その児童自身も泣かない努力をするようになりました。最近では算数の時間に発表するようになり、間違えても自分を受け入れ、周りからも応援されることで、前向きに切りかえられるようになりました。やはり、教員として大切なことは、授業の工夫と児童に寄り添うことだと思いました。これからも児童一人一人と真剣に向き合い、子どもと共に歩んでいきたいです。



「好きなこと」

曾爾小中学校 小谷 太一郎

4月、私は学校で子どもたちに出会いました。緊張と不安を精一杯隠しながら、堅苦しい挨拶をした私を、子どもたちはキラキラした顔で、「新しい国語の先生」として出迎え、話しかけてくれました。その顔について緊張が緩み、私は「私の好きなこと」についての話をしました。そうすると、子どもたちからもそれぞれの好きなアニメやマンガ、小説、アイドル、車、釣り、電車…のことをそれはそれは詳しく教えてくれました。半年が過ぎ、忙しい日々も経験し、自らの力不足に悩むこともあります。ただその度に子どもたちとの何気ない会話で、楽しそうな声を聞く度にまた前向きになっています。これからもっとたくさんの「好きなこと」を知っていこうと思います。

